

東北復興日記

65



十月十八日午後五時、宮城県石巻市役所の庁議室に、いしのまき寺子屋子どもクラブの子どもたちと亀山石巻市長、行政関係者が集まりました。写真。



震災大日本
NPO創生
圏域センター
局長
太田美智子さん

未来のまちジオラマに

が、津波と火災の大きな痛みを受けた南浜・門脇地区の未来のまちづくりを一年かけて取り組み、ジオラマにして市長に手渡しました。門脇小学校に通ったあの取り組みは、未来を切りぬき、家族や友人をなくし、学び舎や家を、あそび場・学用品・玩具も全てなくしてしました。道草も下校後クラスメートと

遊ぶこともできません。ジオラマづくりには十年後、二十年後自分たちが大人になった時を想定して取り組みました。心し配置しました。

また、石巻の歴史研究者から地域の歴史を学び、先人が津波災害を後世に伝えてくれていたのし、首長に届けるという経験は、市民として自ら考え行動する第一歩となつたのです。

が、津波と火災の大きな痛みを受けた南浜・門脇地区の未来のまちづくりを一年かけて取り組み、ジオラマにして市長に手渡しました。門脇小学校に通ったあの取り組みは、未来を切りぬき、家族や友人をなくし、学び舎や家を、あそび場・学用品・玩具も全てなくしてしました。道草も下校後クラスメートと

遊ぶこともできません。ジオラマづくりには十年後、二十年後自分たちが大人になった時を想定して取り組みました。心し配置しました。

また、石巻の歴史研究者から地域の歴史を学び、先人が津波災害を後世に伝えてくれていたのし、首長に届けるという経験は、市民として自ら考え行動する第一歩となつたのです。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組み「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。